

# イカナゴ情報(2011年7月)

平成 23 年 6 月 24 日, 稚内水産試験場調査研究部, Tel 0162-32-7166, 担当: 板谷  
6 月 20 日に北洋丸にて観測した水温情報と漁獲物調査結果を報告します。

## 【水温】

『底水温はポケット海域では昨年よりも 2℃低く, 猿払沖は昨年並み』

ポケット海域 (769, 770 漁区) の水温は, 表面で 5~8℃と昨年よりもかなり低くなっています。底水温も 4~7℃と昨年よりも 2℃ほど低くなっています。6 月下旬のポケット海域は, 東からの冷水の張り出しの影響を受けて水温が昨年よりも低くなっている模様です。

かけまわしの漁場となる猿払沖 (4, 7 漁区) の水温は, 表面水温は昨年と比べて高く, 底水温は 7.5℃前後と昨年並みとなっています。

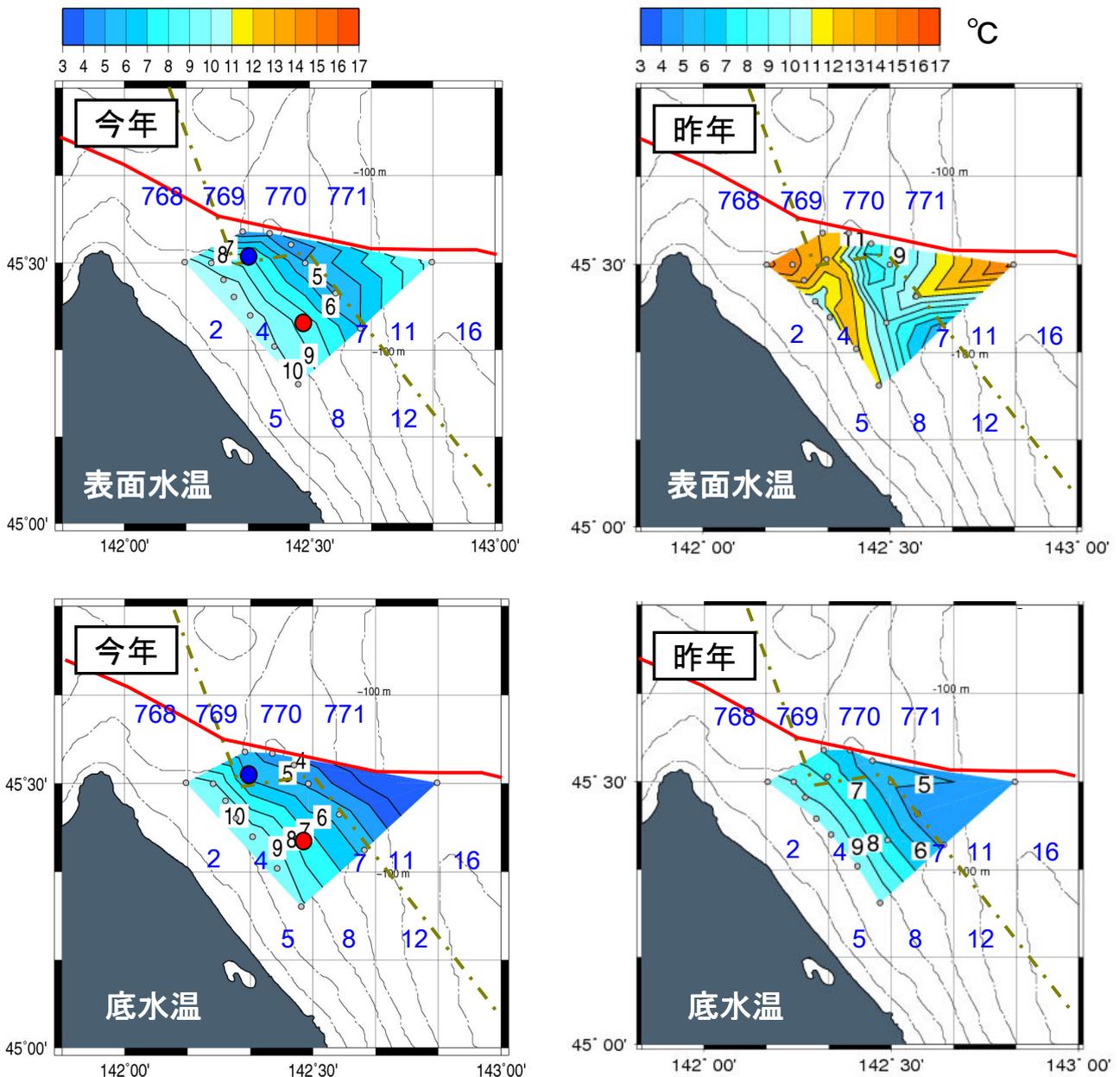


図. 表面水温と底水温の分布. ● ● の水温鉛直分布は次ページにあります.

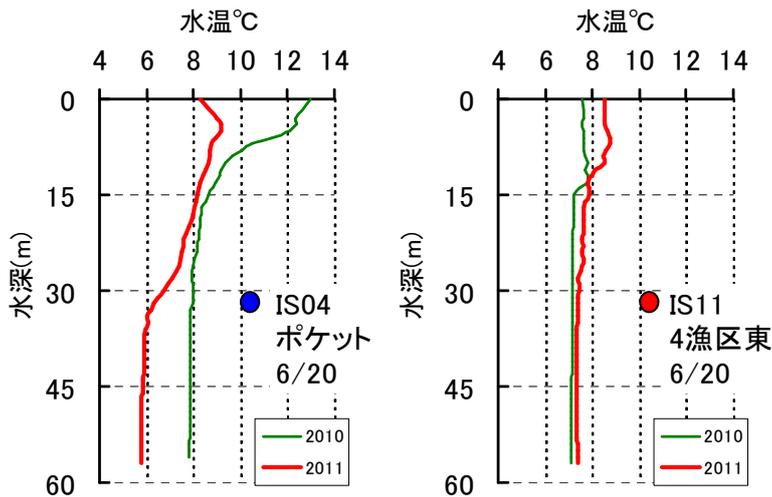


図. ポケット, 猿払沖の水温鉛直分布.

**【6月の漁獲物サイズ組成】**  
**『2歳魚（小型魚）の漁獲が少ない』**

6月1日～6月22日までの約3週間で、オッタートロール船にて3回の漁獲物調査をしました。そのサイズ組成をお知らせします。

体長組成をみると、体長 220～240mm にピークが見られ、昨年豊漁をもたらした3歳（2008年級群）が漁獲の主体となっています。今漁期の主体となる2歳魚（2009年級群）は、3回の調査で、いずれも多くは漁獲されておらず（今年は体長組成の 200mm 前後に山が見られない）、昨年のような豊漁は期待できないかもしれません。

ただし、ポケット漁場の水温は昨年と比べて、低く推移していることから、漁場への来遊が遅れている可能性もあります。水産試験場では、漁獲物のサイズ組成を注視していきますので、今後も漁獲物調査へのご協力をお願いします。

